注目企業の製品・技術　＜順不同＞

防災産業展 in 仙台

THK

「THK免震」は建物用と機器免震用に大別できる。建物用免震装置は建物の下に設置し、地震発生時に建物全体の揺れを軽減する。機器免震装置は必要な部分だけを免震化する装置。サーバーや精密機器などの下に簡単に設置でき、地震の揺れから大切な資産を守るTSD型、データセンターやサーバールームなどフロア全体から生産設備や測定器などの単体設置まで、用途に応じた部分免震が可能なTGS型をラインアップしている。

文化シャッター

文化シャッターは「防災」をキーワードに開発したグループオリジナル製品を出展する。

今回出展するのは、急な増水の備えとしての簡易型止水シート「止めピタ」、ビル・商業施設の水害対策向け止水ドア「アクアード」、〝軽い・割れない・飛散しない〟が特徴で、商業施設やオフィスビルなどで火災が発生した際に、煙の拡散を防ぐ不燃シート製の固定式防煙たれ壁「ケムストップⅡ」、台風や強風による飛来物から住宅の開口部を守る住宅用窓シャッター「マドマスターシリーズ」の4製品だ。

「止めピタ」と「アクアード」は、来場者に止水性能を確認できる止水実演を行う。

これらの製品を出展することで、被害を最小限に食い止める製品の紹介とソリューションを提案する。

十川ゴム

十川ゴムはゴム特有の柔軟性と加工性を生かしX線・γ線などの放射線を確実に遮蔽する「放射線遮蔽ゴムシート」を開発した。遮蔽材料として極力安価で安全な素材選定を行い、従来の常識では考えられないような量の硫酸バリウムをゴム素材の中に配合した。

貯水槽用浮体式波動抑制装置「タンクセイバー・波平さん」は、東日本大震災で仙台市内の公立中学校196校中32%にあたる62校の貯水槽が破損被害を受けたことを憂慮し製品化。避難場所である学校や病院における「命の水」を守るため中央大学、エヌ・ワイ・ケイ（東京都中央区）との産学協同で開発を進めてきた。同装置は最大波高さを3分の1程度に抑えることで破損被害の大幅な減少を可能にする。同社ブースで振動台模型を用いて展示する。

震災の記憶を風化させない

昭電

昭電は細かく・早く揺れる短周期地震動から大きく・ゆっくり揺れる長周期の地震動までを安全に守るラック用免震装置「SD6」を開発。あらゆるタイプの地震動に対応し、高い評価を得ている。特に重要なデータセンターやサーバールーム内のラックや設備の地震対策に最適。東日本大震災では高層ビルなどで長周期地震動による被害が課題となった。その他、短周期の震度7対応が可能な免震装置「SD-5 typeⅡ」や複合機の移動・転倒防止用「キャストップ」、OAフロアの耐震工法などで強力サポートする。

プロセブン

プロセブンの震度7対応耐震マットでバイオマス素材タイプの「プロセブン バイオマスマット」は、生物由来の資源を原料としている。日本バイオマス製品推進協議会の認証を取得しており、企業のグリーン調達に貢献する。バイオマス素材の含有率は20%。材料の配合や製造方法、分子構造を研究し、バイオマス素材の含有と耐震性能とを両立した。耐用年数は非バイオマス素材の製品に比べ、約2倍の8―10年。耐震荷重は50ミリメートル角の製品の場合、非バイオマス素材と比べ40%増の140キログラム。

アイコム

無線通信機器総合メーカーのアイコムは、無線LANで通信するIPトランシーバー「IP ADVANCED RADIO SYSTEM」を発売している。

既存のパソコンや、スマートフォン用のアクセスポイントを中継器とすることで、地上・地下間や本社・支社間など、広範囲なエリアで通話が行えるシステム。1対多数の一斉通話や、多者同時通話など多彩な通話が可能。通常業務での活用のほか、災害時に備えた予備の通信手段としても活用できる。

山洋電気

山洋電気の耐久ファンシリーズの中で「San Ace T」9GTタイプは、耐環境性に優れ高い信頼性を持つ。℃40度―℃85度Cの広い温度範囲で、低温や高温の環境においても安心して使用できる。また長寿命ファン「San Ace L」9LGタイプは、高風量かつ期待寿命18万時間（約20年間）もの間、メンテナンスフリーを実現。防水ファン「San Ace W」9WLタイプは、保護等級IP68の高い防水・防塵性能を備え、高風量と長寿命を兼ね備えている。

インフォコム

インフォコムは企業や医療・公共機関向けのITサービスと、一般消費者向けのコンテンツ配信やEコマースなどのネットビジネスを展開している。

同社は事業推進に加えて、社会的活動に力を入れており、東日本大震災後、地域とともに復興活動に関わる拠点として、宮城県岩沼市に「岩沼みんなの家」を建設した。同所は地域の住民が集うコミュニケーションの場として、また地元野菜の販売など農業の復興を進めるための施設として有効に活用されている。

協同

協同は食品向け瞬間発熱剤「モーリアンヒートパック」のメーカー。アルミニウム粉末などを利用した固形剤で、水をかけると化学反応で瞬時に発熱。約98度Cの高温蒸気を20分間程度発生する。起立式で蒸気を逃がせる専用加熱パックに、同加熱剤と一緒にレトルトや缶詰などを入れて調理する仕組みだ。

自衛隊や各国の軍隊、自治体の非常時向け備蓄、アウトドア、飲食業界向けなど幅広い分野で使われる。コンパクトで長期間保存が利き、一般ゴミとして処理できる。

計測技研

計測技研の「Mobile G-DAQ（モバイルジーダック）」は放射線線量計、全地球測位システム（GPS）、データメモリーなどを一体化した携帯型環境放射線線量計。データは自動記録で、広範囲の移動測定でも手間がかからない。

線量計は高精度測定が可能なエネルギー補償型。測定値はGPSによる時刻・位置情報と合わせて内蔵のメモリーに保存する。省電力無線機能も搭載した。データは、ネットワーク型環境放射線線量計「G―DAQ」との連携活用も可能だ。

ダイワボウプログレス

ダイワボウプログレスの「ボディバリア」は、難燃素材「ダイワボウプロバン」を使った溶接用保護具。素材は綿100%の風合いと吸水性を持つ。さらに燃えにくさを示すLOI値30%以上と難燃基準を満たした難燃加工を施した。300回洗濯しても難燃性や耐久性を損なわない。溶接作業用ユニホームとして、鉄鋼や化学、輸送機械の製造現場と学校の溶接実習向けなどでの用途を見込む。多様なニーズに対応するため、ずきんや袖付きの前掛け、ベスト、エプロンなど豊富な商品群を用意。作業性に配慮したデザインとした。

京葉ガス

京葉ガスは都市ガスを安全に安定して届けるため地震対策に力を入れている。ガス導管には耐震性に優れたガス管を使用し、全体の90%を占める低圧導管には東日本大震災などで耐震性が証明された「ポリエチレン管」を積極的に採用。大地震発生時に、ガス漏れや火災など二次災害防止のためガス供給を停止する場合は「ガス導管のブロック化」により停止範囲を最小限にとどめ、迅速に復旧作業する体制を整えている。各家庭では震度5強相当以上の揺れを感知すると自動的にマイコンメーターがガスをストップする機能も備える。

■ 出展企業ワークショップ　会場 展示ホール内　■ 定員 70人

■ワークショップ会場1

3月15日(日)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	TOA	営業戦略室 営業開発課 課長 凍田 裕一氏	あなたの街の屋外防災放送。放送内容が理解できますか？
12:30～13:15	石巻専修大学	理工学部 教授 山本 憲一氏	FRS　浮き輪や防寒着としても使用できる多機能シートカバー
13:30～14:15	オオハシ	プラスチック事業部 事業部長 塩野 武男氏	災害対策と仮設道路用プラスチック製敷板「リビーボード」
14:30～15:15	古河電気工業	アクセスネットワーク部 技術グループ グループリーダー 山下 鉄広氏	光ファイバセンシング製品のご紹介
15:30～16:15	日本災害対策機構	人材コンサルタント・釜石未来子供アドバイザー 笹田 学氏	子供達が繋ぐ未来の防災教育
		レイオス 代表取締役 北田 富一氏	災害時に人の命を守る照明制御とは

3月16日(月)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	日立製作所	ディフェンスシステム社 マーケティング本部 事業開発センタ 主任技師 吉川 健多郎氏	安心・安全な社会を支える日立の防災ソリューションの紹介
13:30～14:15	倉元製作所	代表取締役社長 鈴木 聡氏	被災企業倉元製作所が創り出す防災用品について
14:30～15:15	信防エディックス	営業部 第1課 下村 進氏	早めの準備と避難が、災害から命を守る
15:30～16:15	ウイーズダム	代表取締役 福島 一郎氏	全天候型ソーラー・サイン『光彩』の拡販について

3月17日(火)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	横田瀝青興業	代表取締役 横田 勝好氏	タンクローリー直結型緊急時用燃料ポンプ「どこでもスタンド」
12:30～13:15	十川ゴム	中央大学 総合政策学部 教授 平野 廣和氏	給水タンクを地震から守る浮体式波動抑制装置の開発
13:30～14:15	パシフィックコンサルタンツ	都市・環境事業本部 総合プロジェクト部 坂井 健一氏	相互バックアップシティの実現に向けて
14:30～15:15	フジタ	建設本部土木エンジニアリングセンター 技術企画部 担当課長 野末 晃氏	遠隔操縦ロボット（ロボQ）
		技術センター土木研究部 主席コンサルタント 木村 健一氏	低放射化コンクリート
15:30～16:15	日本災害対策機構	理事長 星野 克美氏	日本の防災未来設計
		専務理事 星加 直孝氏	コンテナ地域防災の将来計画

■ワークショップ会場2

3月15日(日)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	赤松電気	取締役 会長 赤松 重秀氏	停電時切替システム（エレクビース）
12:30～13:15	シーエスデー	営業企画室 シニアマネージャー 加藤 秀氏	災害時の停電対策、LPガス発電機を用いた全自動緊急電源
13:30～14:15	プローブル企画	東京医療コンサルティング 代表取締役社長 尊田 京子氏	女性帰宅困難者の安心・安全確保―具体的事例とその方法―
14:30～15:15	広島大学	工学研究院 社会基盤環境工学専攻 助教 有尾 一郎氏	わずか10分で架けられる緊急展開橋、モバイルブリッジ
15:30～16:15	シーエスデー	山口大学大学院 理工学研究科 名誉教授 田中 正吾氏	電磁波レーダを活用した、鉄筋探査及びコンクリートの劣化診断

3月16日(月)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	横田瀝青興業	代表取締役 横田 勝好氏	タンクローリー直結型緊急時用燃料ポンプ「どこでもスタンド」
12:30～13:15	NTTグループ	日本電信電話 研究企画部門 チーフプロデューサ 後藤 達也氏	NTTグループの防災・減災ソリューションの展開
13:30～14:15	日立造船	機械・インフラ本部 防災ビジネスユニット長 福本 和弘氏	安全・安心な社会作りに貢献する日立造船の防災ソリューション
14:30～15:15	富士電機	スマートコミュニティー 総合技術部 部長 増渕 正裕氏	環境ー防災に配慮したスマートコミュニティ
15:30～16:15	構造計画研究所	エンジニアリング営業部 副部長 中村 仁氏	3次元免震をはじめとする免制振建物の当社構造設計実績のご紹介

3月17日(火)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
11:30～12:15	日立造船	機械・インフラ本部 防災ビジネスユニット長 福本 和弘氏	安全・安心な社会作りに貢献する日立造船の防災ソリューション
12:30～13:15	宮城県地域復興再生企業組合	コアテック 専務取締役 相馬 定廣氏	災害時および平常時における衛星（IPSTAR）の活用方法
13:30～14:15	NTTグループ	NTTドコモ サービスイノベーション部 担当課長 堀口 賞一氏	災害時にも役立つ新たな近距離コミュニケーションを目指して
14:30～15:15	NTN	グローバルエナジー 代表取締役 鈴木 政彦氏	風力革命-逆も真なり

植物工場セミナー

3月17日(火)

発表時間	出展者名	発表者	テーマ
15:30～16:00	経済産業省東北経済産業局	産業部経営支援課 新事業促進室 田中 祐正氏	経済産業省の植物工場関連施策
16:10～16:40	パナソニックAVCネットワークス社	アグリ事業推進室 参事 松葉 正樹氏	補助金不要で黒字化！世界初…歩留まり95%の人工光型植物工場

ICOM　無線LANで使えるトランシーバー。

コミュニケーションが広がる、無線LANトランシーバー。
IP ADVANCED RADIO SYSTEM
《RoIP(Radio over IP)通信ソリューション》

業界初※のデジタル簡易無線機をリリースするなど、次々と無線通信の可能性にチャレンジするアイコム。その最新の取り組みが、IP ADVANCED RADIO SYSTEMです。パソコンやスマホのインターネット接続に使う無線LANアクセスポイントで、トランシーバーからの音声や文字情報を中継し、広範囲での同時通話を実現。既存のインフラを利用して、電波の届きにくいところや遠隔地と電話のようなリアルタイムなコミュニケーションを可能にします。
※当社調べ

広範囲に一斉連絡
スタッフに一斉に同じ情報を連絡。特定のスタッフやエリアを指定して送信することもできます。

同時通話に対応
作業の進行を電話で話すようにリアルタイムに共有できる同時通話に対応しています。

不感地帯を解消
地下と地上など、従来の無線機で通話が難しかった場所でも、LAN経由だからスムーズに通話できます。

拠点間連絡に対応
アクセスポイントの増設だけで通話エリアを拡大。インターネット経由で、離れた支店とも通話できます。

高品質がテーマです。
安全・安心をサポートするデジタル簡易無線機。

アイコム株式会社　www.icom.co.jp
本　社　547-0003 大阪市平野区加美南1丁目1-32
北海道営業所 TEL 011-820-3888　仙台営業所 TEL 022-298-6211
東京営業所 TEL 03-5847-0722　名古屋営業所 TEL 052-832-2525
大阪営業所 TEL 06-6793-0331　広島営業所 TEL 082-501-4321
四国営業所 TEL 087-835-3723　九州営業所 TEL 092-534-5900
50th Anniversary 1964~2014 おかげさまで50周年

●カタログをご希望の方は、ハガキにお名前・ご住所（郵便番号）・電話番号、ご希望のカタログおよびご覧になった新聞名をご記入の上、〒547-0004大阪市平野区加美北1丁目6-19 アイコム(株)【日刊工業新聞】係まで。●商品の技術的なお問い合わせは（平日9:00～17:00）フリーダイヤル:0120-156-313、携帯電話・PHS・公衆電話からは:06-6792-4949へ。その他のお問い合わせは最寄りの営業所まで。●アイコム株式会社、アイコム、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。●定格・仕様・外観・表示等は改良のために予告なく変更することがあります。●イヤホン使用時は、音量には十分ご注意ください。